

付録一 6 詳細調査報告書様式

—目次—

	ページ
詳細調査写真・・・・・・・・・・・・・・・・	1
漏水調査票・・・・・・・・・・・・・・・・	2
鋼塗膜調査票・・・・・・・・・・・・・・・・	3
R C床版ひび割れ調査・・・・・・・・・・	6
F 1 1 T遅れ破壊調査・・・・・・・・・・	7
第三者被害抑止調査票・・・・・・・・・・	9
B O X構造内部調査・・・・・・・・・・	10
鋼製パイルベント調査・・・・・・・・・・	11
ケーブル詳細調査・・・・・・・・・・	13
洗掘詳細調査・・・・・・・・・・	17
鋼床版等疲労調査・・・・・・・・・・	18
コンクリート健全性調査票・・・・・・・・	20
鋼製橋脚隅角部疲労調査・・・・・・・・	24
塩害調査票・・・・・・・・・・・・・・・・	26
アルカリ骨材反応調査・・・・・・・・・・	28

詳細調査写真

詳細調査写真										
OBAS No.			路 線 名		径間番号		径間番号		径間番号	
橋 梁 名			走行区分		工 営 所		工 営 所		工 営 所	
交差物名			位置区分		建設年		建設年		建設年	
写真番号			1	径間番号	撮影年月日		写真番号	2	径間番号	撮影年月日
					部材名				部材名	
					部材番号				部材番号	
					損傷の種類				損傷の種類	
					損傷度評価				損傷度評価	
					メ				メ	
写真番号			3	径間番号	撮影年月日		写真番号	4	径間番号	撮影年月日
					部材名				部材名	
					部材番号				部材番号	
					損傷の種類				損傷の種類	
					損傷度評価				損傷度評価	
					メ				メ	

詳細調査写真

漏水調査票

OBAS No.	路線名	行政区	径間番号	
橋梁名	走行区分	工営所	点検年月日	
交差物名	位置区分	建設年	点検者名	

調査 径間	総合評価(※1)				損傷状況等(※2)	調査結果 (※3)	備考
	舗装	排水管	排水柵	伸縮装置			
1	○	○	○	×	伸縮装置からの漏水が見られる	×	
2	○	○	○	×	伸縮装置からの漏水が見られる	×	
3	○	○	×	○	排水柵が破損している。	×	
4	○	○	○	×	伸縮装置からの漏水が見られる	×	
5	○	○	○	×	伸縮装置からの漏水が見られる	×	
6	○	○	○	×	伸縮装置からの漏水が見られる	×	
7	○	○	○	×	伸縮装置からの漏水が見られる	×	
総合評価	E						
評価	7径間中6径間において、伸縮装置の漏水が見られた。鋼部材の腐食を助長しており、対策が必要である。						

※1 総合評価は、各部位について、評価(位置)の最低を評価する。評価は健全は○、不具合がある場合は×とする。

※2 漏水状況やそれに伴う損傷状況等を具体的に記述する。

※3 調査結果は、データベースに反映する結果であり、各部位について、調査径間の総合評価の最低を採用するものとする。

①目視で腐食が最も進んでいる径間										②目視で腐食が平均的である径間									
ウェブ					下フランジ					ウェブ					下フランジ				
中央部一般外桁	写真	さび	3	写真	さび	3	写真	さび	3	写真	さび	3	写真	さび	3				
		はがれ	はがれ		はがれ	はがれ													
		3	3		3	3													
		機能水準	機能水準		機能水準	機能水準													
		10	10		10	10													
中央部一般内桁	ウェブ	さび	3	写真	さび	3	ウェブ	さび	3	写真	さび	3	下フランジ	さび	3				
		はがれ	はがれ		はがれ	はがれ													
		3	3		3	3													
		機能水準	機能水準		機能水準	機能水準													
		10	10		10	10													
中央部細桁内面	ウェブ	さび	0	写真	さび	0	ウェブ	さび	0	写真	さび	0	下フランジ	さび	0				
		はがれ	はがれ		はがれ	はがれ													
		0	0		0	0													
		機能水準	機能水準		機能水準	機能水準													
		－	－		－	－													
桁端部一般外桁	ウェブ	さび	3	写真	さび	3	ウェブ	さび	3	写真	さび	3	下フランジ	さび	3				
		はがれ	はがれ		はがれ	はがれ													
		3	3		3	3													
		機能水準	機能水準		機能水準	機能水準													
		10	10		10	10													
桁端部一般内桁	ウェブ	さび	3	写真	さび	3	ウェブ	さび	3	写真	さび	3	下フランジ	さび	3				
		はがれ	はがれ		はがれ	はがれ													
		3	3		3	3													
		機能水準	機能水準		機能水準	機能水準													
		10	10		10	10													
桁端部細桁内面	ウェブ	さび	0	写真	さび	0	ウェブ	さび	0	写真	さび	0	下フランジ	さび	0				
		はがれ	はがれ		はがれ	はがれ													
		0	0		0	0													
		機能水準	機能水準		機能水準	機能水準													
		－	－		－	－													

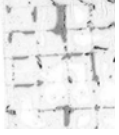


は が れ 評 価	0	2	4	6	8	8	
	1	4	6	6	6	8	
	2	4	6	6	8	8	
	3	4	6	8	8	10	
		さび評価(3~0)					
		腐食(A~E)					
		E	D	C	B	A	
		0	1	2	3		

その他には、照明柱や鋼製橋（行を追加してすべて書くこと）

構梁名	
-----	--

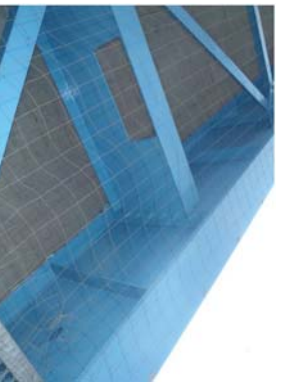
種別	塗装仕様区分	部位	塗装系	素地調整程度			
				さび		塗膜異常(われ・ふくれ・はがれ・白亜化等)	
				さび 状況写真	さび面積区分	塗膜異常 状況写真	塗膜異常面積区分
中央部	外面系	外桁		 ※さびの発生範囲や状況が分かる全写真を撮影のこと。		 ※塗膜異常の発生範囲や状況が分かる全写真を撮影のこと。	
	内面系	箱桁					
桁端部	外面系	外桁					
		内桁					
	内面系						
鋼床版							

【参考】		
基礎目カッター試験		評価点
試験状況写真		
 ※カッター跡はカッターの刃跡写真を撮影のこと。		
 ※カッター跡はカッターの刃跡写真を撮影のこと。		

素地調整程度の判定表		
【素地調整程度の判定方法】 ・素地調整程度は、下表を目安に判定する。 ・さび面積区分あるいは塗膜異常面積区分の悪い方を評価して、判定すること。		
素地調整程度	さび面積	塗膜異常面積(われ・ふくれ・はがれ・白亜化等)
1種	-	-
2種	30%以上 点さびが進行し、密状に近い状態にさび	-
3種A	15～30% 点さびがかなり点在	30%以上
3種B	5～15% 点さびが少し点在	15～30%
3種C	5%以下 点さびが僅人の少し点在	5～15%
4種	密着はしないが塗膜にさびがはみ出さず、はがれ等が少し発生	5%以下

鋼道路橋塗装・防食便覧 社団法人 日本道路協会 H17.12
表-II 7.10 素地調整程度と作業内容

塗膜状況写真

全景	径間	橋面	径間	橋梁下面	径間	橋名板	径間	塗歴板	径間
									
写真番号	1	写真番号	2	写真番号	3	写真番号	4	写真番号	5
径間		径間		径間		径間		径間	
									
写真番号	6	写真番号	7	写真番号	8	写真番号	9	写真番号	10
径間		径間		径間		径間		径間	
									
写真番号		写真番号		写真番号		写真番号		写真番号	
径間		径間		径間		径間		径間	
備考 (記載例) ・部分的な錆が確認されるが、局所的なものであったため、評価3とした。 ・塗膜のはがれは確認されなかったため、評価3とした。 ・局所的に白垂化が確認されるが、非常に軽微であり、評価3とした。 ・塗膜われは確認されなかったため、評価3とした。 ・塗膜のふくれは確認されなかったため、評価3とした。									

- ※1 径間毎に、パネルごとの評価図を作成する。また、損傷区分ごとに代表パネルにてクラック図を作成する。
- ※2 総合評価面(各パネルの評価の平均値)は、算出方法は詳細調査要領による。(小数点以下第2位を切り捨てとする)
- ※3 長支間で1枚での記入が困難な場合は、分割して記載する。
- ※4 RC床版を補強済み(鋼板接着、炭素繊維シート等)である場合は、補強範囲を図示すること。また、鋼板補強部の叫
- ※5 作業時には、作業区域を明確にして第三者に危険の及ぶことのないよう注意する。
- ※6 点検者は落下物に十分注意を払い、自身の安全を確保しなければならない。
- ※7 対象となる径間の全パネルの写真を撮影し、詳細調査写真に納めること。

F11T遅れ破壊調査(調査位置図)

OBAS No.		路線名		行政区		径間番号	
橋梁名		走行区分		工営所		点検年月日	
交差物名		位置区分		建設年		点検者名	
調査径間	～						
調査位置図							
その他							

F11T遅れ破壊調査(調査結果)

OBAS No.		路線名	行政区	径間番号					
橋梁名		走行区分	工営所	点検年月日					
交差物名		位置区分	建設年	点検者名					
調査径間	～								
接合部概略図			調査結果(※1)						
			検査	結果				備考	
				使用本数(全数)	調査箇所①	調査箇所②	調査箇所③		調査箇所④
					損傷				
					脱落				
					破損				
					ゆるみ				
			その他						
			合計						
			第三者被害(有無)						
			検査	結果				備考	
				使用本数(全数)	調査箇所⑤	調査箇所⑥	調査箇所⑦		調査箇所⑧
					損傷				
					脱落				
					破損				
					ゆるみ				
その他									
合計									
第三者被害(有無)									
	検査	結果				備考			
		使用本数(全数)	調査箇所⑨	調査箇所⑩	調査箇所⑪		調査箇所⑫		
			損傷						
			脱落						
			破損						
			ゆるみ						
	その他								
	合計								
	第三者被害(有無)								
	判定(径間単位での第三者被害可能性)								
	その他								

第三者被害抑止調査票(Co地覆・壁高欄等)

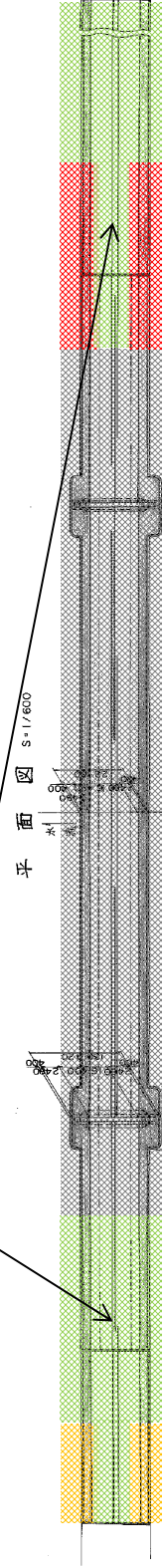
OBAS No.	路線名	行政区	区間番号	
橋梁名	走行区分	工営所	点検年月日	
交差物名	位置区分	建設年	点検者名	

損傷図

第三者被害予防措置

判定区分Aの範囲	判定区分Dの範囲
判定区分Bの範囲	判定区分Eの範囲
判定区分Cの範囲	調査対象外

床版鋼板補強済み



対策状況	未実施	たたき面積 (㎡)	5775	判定C面積 (㎡)	0	判定D面積 (㎡)	700	判定E面積 (㎡)	1050	特記事項	床版は鋼板接着補強済み
------	-----	-----------	------	-----------	---	-----------	-----	-----------	------	------	-------------

BOX構造内部調査（調査位置図）

OBAS No.	路線名	行政区	径間番号
橋梁名	走行区分	工営所	点検年月日
交差物名	位置区分	建設年	点検者名

調査径間 ~

※マンホール位置を明示すること。（シール貼り付け位置）
※亀裂に関しては、鋼床版等疲労調査（調査結果）の様式に取りまとめること。

G2

頂面

側面（左）

側面（右）

下面

PNU-20

PNU-21

床版Ds01⑦床版ひびわれ・漏水・遊離石灰-B

床版Ds02⑥剥離・鉄筋露出-C

主桁Mg02①腐食-C

主桁Mg02①腐食-E

主桁Mg02①腐食-C

マンホール位置

損傷の凡例	
腐食	
剥離	
鉄筋露出	
コンクリート層剥離時の露筋	
漏水	
遊離石灰	
ひびわれ	
その他	

その他

鋼製パイルベント橋脚調査(損傷展開図)

OBAS No.		路線名	行政区	径間番号	
橋梁名		走行区分	工営所	点検年月日	
交差物名		位置区分	建設年	点検者名	

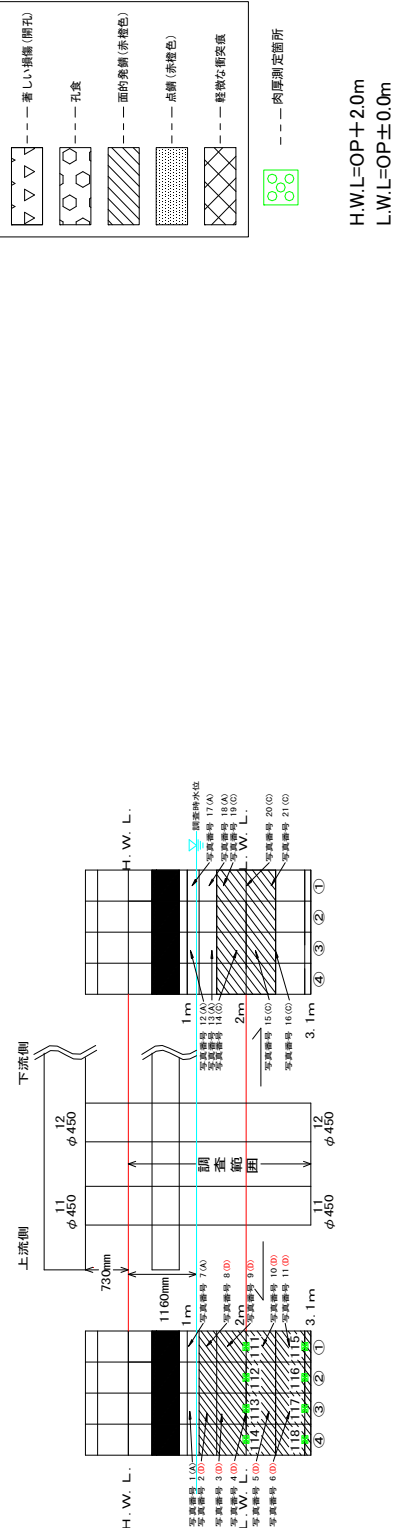
調査概要											
初期肉厚 16 (mm)	測定箇所名										
	腐食量(mm)										
損傷評価	部材番号										
	損傷区分										

※肉厚測定箇所名:”パイルベント番号”+水面側下流側から若い番号とする。
展開図に肉厚測定箇所名を記入する。

※パイルベント番号:A1側上流側を若い番号とする。

例)

損傷展開図



H.W.L=OP+2.0m
L.W.L=OP±0.0m

鋼製パイルベント橋脚調査(肉厚測定記録)

調査構造物名		鋼製パイルベント		測定年月日			
鋼材の種類				天気			
測点名				測定者			
腐食期間(年数)				測定器			
パイルベント番号	測定深度	測定方向	初期肉厚	残存肉厚(測定値)			腐食量 (T1-T2)
No.	m	No.	T1(mm)	1回	2回	3回	mm
	OP± m	上下流 (測定点番号)					
	OP± m	上下流 (測定点番号)					
	OP± m	上下流 (測定点番号)					
	OP± m	上下流 (測定点番号)					
	OP± m	上下流 (測定点番号)					
	OP± m	上下流 (測定点番号)					

ケーブル詳細調査 腐食調査(過流探傷法1/2)

OBAS No.	路線名	行政区	径間番号
橋梁名	走行区分	工営所	点検年月日
交差物名	位置区分	建設年	点検者名

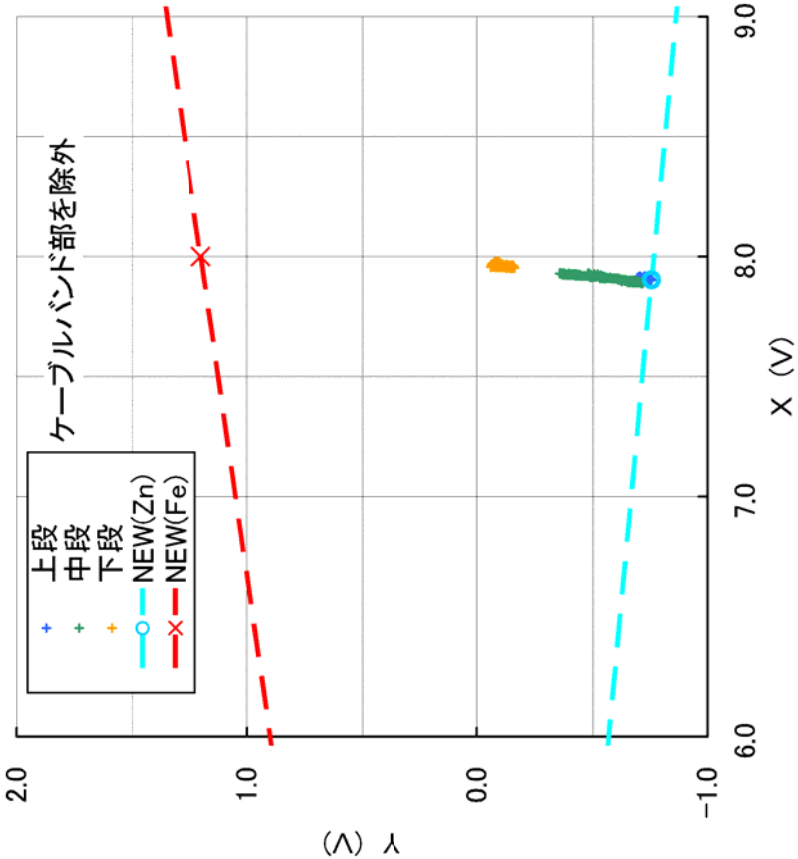
調査概要	最大腐食ケーブル調査結果	ケーブルNo
------	--------------	--------

腐食評価グラフ

調査結果	要									
開封または全磁束法要否判定										
ケーブルNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
腐食評価 θi										
ケーブルNo	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
腐食評価 θi										
最大腐食ケーブルNo										m
最大腐食位置										
※下端からの位置です。										

ケーブルNo位置図

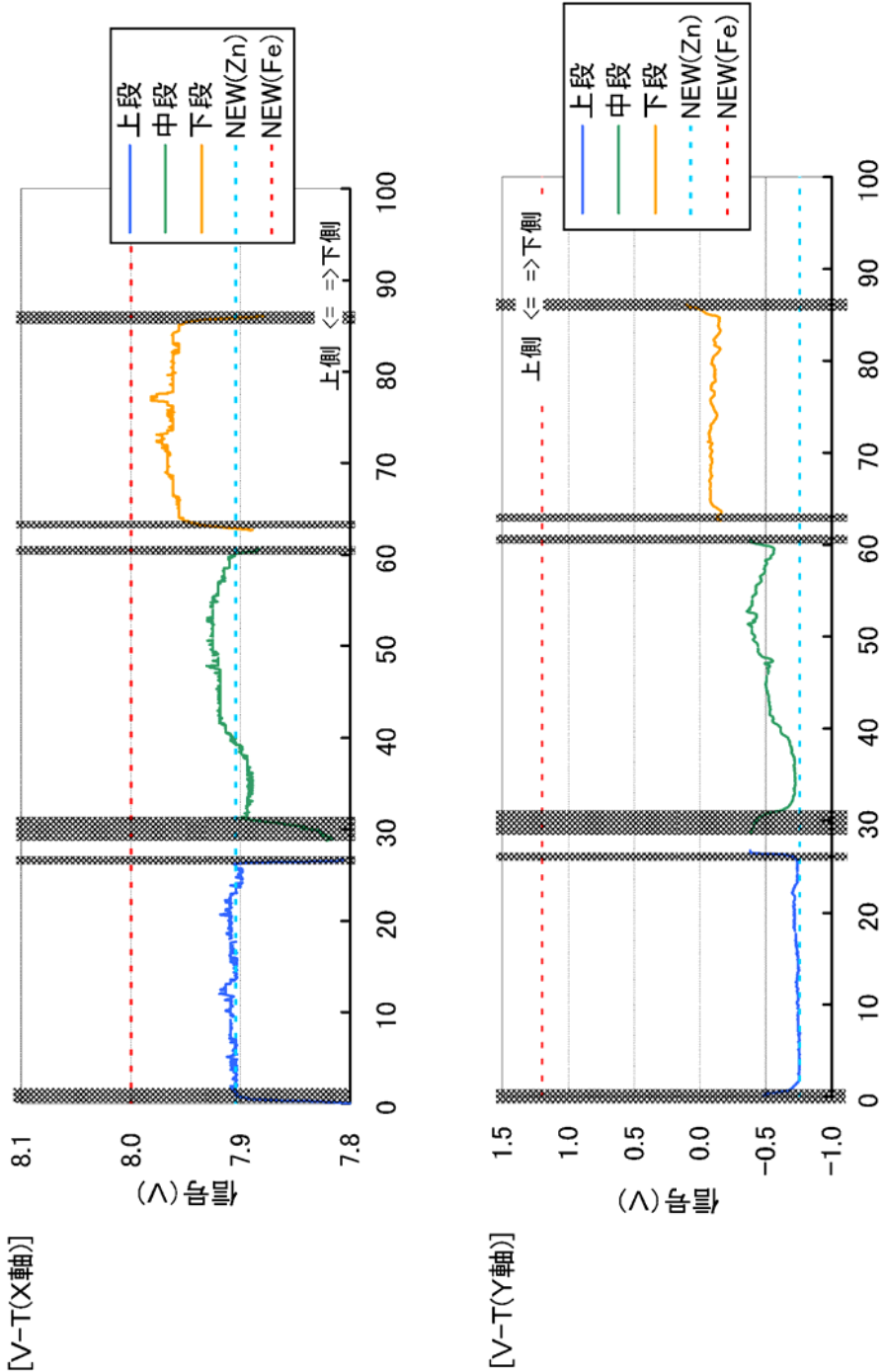
位置図



ケーブル詳細調査 腐食調査(過流探傷法2/2)

OBAS No.	路線名	行政区	径間番号
橋梁名	走行区分	工営所	点検年月日
交差物名	位置区分	建設年	点検者名

電圧変化グラフ



ケーブル詳細調査 腐食調査 (開封調査)

OBAS No.	路線名	行政区	径間番号
橋梁名	走行区分	工営所	点検年月日
交差物名	位置区分	建設年	点検者名

調査概要

調査結果

ケーブルNo	調査位置	
腐食量(%)	腐食の状態	
腐食評価	腐食深さ(何層目)	
	断面欠損の有無	
腐食量判定シート	本数	基準腐食量
腐食なし	9999	0.0%
白錆	0	0.3%
赤錆点在	0	1.1%
赤錆1/2面	0	2.9%
赤錆全面,孔食有り	0	4.7%
断線有り	0	100.0%
合計	9999	-

調査写真

上面 素線間に溝あり ケレン前

錆が目立つ箇所

内層素線確認 (上面ケレン後)

内層素線確認 (下面ケレン後)

素線径計測

ケーブル詳細調査 張力調査

[illegible]

洗掘状況調査(損傷展開図)

OBAS No.	路線名		行政区		径間番号	
橋梁名	走行区分		工営所		点検年月日	
交差物名	位置区分		建設年		点検者名	

調査概要

測定箇所名	上流1	上流2	上流3	上流4	中央1	中央2	下流1	下流2	下流3	下流4
洗掘深さ	計測値(mm)									
根入れ(mm)										
損傷評価	損傷区分									

(1)現地点検項目

○橋梁軸線がずれていないか
○橋台・橋脚躯体の傾斜、沈下、ひび割れ等の変状がないか
○橋台・橋脚周辺の河床沈下はないか
○フーチングの上面又は下面が露出していないか
○洗掘深さは進行していないか
○対策工に変状はないか
等

(2)現地計測項目

例)

損傷展開図

<正面図>

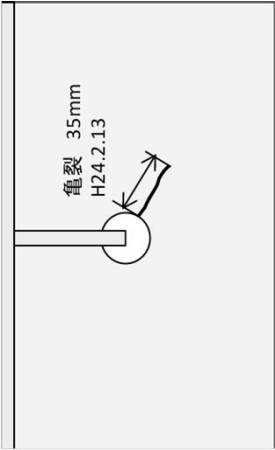
<平面図>

計測時の水深

鋼床版疲労調査(調査位置図)

OBAS No.	路線名	行政区	径間番号	
橋梁名	走行区分	工営所	点検年月日	
交差物名	位置区分	建設年	点検者名	
調査径間	～	部材名	部材番号	
調査位置図				
その他				

鋼床版疲労調査(調査結果)

OBAS No.	路 線 名		行政区	径間番号			
橋 梁 名	走行区分		工営所	点検年月日			
交差物名	位置区分		建設年	点検者名			
調査径間	～						
損傷図(※1)							
調査結果							
検査		結果					
		番号①	番号②	番号③	番号④	番号⑤	備考
目視検査	塗膜われ	無	無	無	無	有	
	局所錆	無	無	無	無	有	
渦流探傷試験(有・無)		無	無	無	無	有	
磁粉探傷試験(mm)						35	
判定		×					
評価							
探傷試験スケッチ図 							

※1 疲労亀裂は、亀裂の大きさと先端を図示する。
※2 塗膜を除去した場合は、部分補修(塗り替え)を実施する。

コンクリート健全性調査票(調査位置概要図)

OBAS No.	路線名	行政区	径間番号
橋梁名	走行区分	工営所	点検年月日
交差物名	位置区分	建設年	点検者名

調査位置図

その他	
-----	--

※ 調査箇所の概要がわかるような記録をする(橋梁全体のどの径間を調査したか、どの部材を調査したかわかるように記入する)

中性化深さ調査票(調査結果)

OBAS No.	路線名	行政区	径間番号
橋梁名	走行区分	工営所	点検年月日
交差物名	位置区分	建設年	点検者名

調査位置詳細図(※1)				調査結果			
	調査径間	1	調査径間				
	調査部位	主桁	調査部位				
	測定結果(※2)	80.0	測定結果(※2)	①			
		97.0		②			
		95.0		③			
		90.7		平均			
		30.0		①			
	30.0		平均				
	環境条件(通常:1、塩害:2)	1	環境条件(通常:1、塩害:2)				
	発錆限界深さ(※3)	20.0	発錆限界深さ(※3)				
	竣工年	1987年	竣工年				
	供用年数		供用年数				
		×					
中性化深さが著しく大きいため、コンクリートの品質低下が懸念される。							

判定(中性化進行状況より、コンクリートの品質低下が懸念される場合は×、されない場合は○)	
その他	

※1 調査箇所の詳細がわかるような記録をする(基本となる部材からの距離などを記入)。
 ※2 中性化深さは3箇所測定し、それらの値は平均値からの偏差が±30%以内でなければならない。(平均値からの偏差%)=[(個々の値-平均値)/平均値]×100)
 ※3 発錆限界深さは、通常環境(かぶり深さ-10mm)、塩害環境(かぶり深さ-25mm)とする。

圧縮強度調査(コア法)

OBAS No.		路 線 名		行政区	径間番号	
橋 梁 名		走行区分		工 営 所	点検年月日	
交差物名		位置区分		建設年	点検者名	
調 査 結 果	試 料 1	径間	供試体寸法		質量(kg)	1 214
			供試体質量(g)	1214	見掛けの密度(kg/m³)	2410
		1	供試体	1	最大荷重 f_c' (N)	111000
			長さ	2	高さ補正值	1
			(mm)	平均	高さ補正後圧縮強度(N/mm²)	30.1
		部位	供試体	1	静弾性係数(kN/mm²)	24.5
			直径	2	設計基準強度(N/mm²)	14
			(mm)	平均	判定(圧縮強度＞設計基準強度なら○)	○
	試 料 2	径間	供試体寸法		質量(kg)	
			供試体質量(g)		見掛けの密度(kg/m³)	
			供試体	1	最大荷重 f_c' (kN)	
			長さ	2	高さ補正值	
			(mm)	平均	高さ補正後圧縮強度(N/mm²)	
		部位	供試体	1	静弾性係数(kN/mm²)	
			直径	2	設計基準強度(N/mm²)	
			(mm)	平均	判定(圧縮強度＞設計基準強度なら○)	
	試 料 3	径間	供試体寸法		質量(kg)	
供試体質量(g)				見掛けの密度(kg/m³)		
		供試体	1	最大荷重 f_c' (kN)		
		長さ	2	高さ補正值		
		(mm)	平均	高さ補正後圧縮強度(N/mm²)		
部位		供試体	1	静弾性係数(kN/mm²)		
		直径	2	設計基準強度(N/mm²)		
		(mm)	平均	判定(圧縮強度＞設計基準強度なら○)		

圧縮強度調査(反撥硬度法)

OBAS No.	路線名	行政区	径間番号
橋梁名	走行区分	工営所	点検年月日
交差物名	位置区分	建設年	点検者名
調査径間			
1			
主桁			
調査部位	測定回数	測定値	測定回数
測定回数	測定値	測定値	測定回数
1	48	47	16
2	45	44	17
3	51	50	18
4	47	46	19
5	50	49	20
6	45	44	21
7	47	46	22
8	48	47	23
9	44	43	24
10	44	43	25
11	53	52	26
12	46	45	27
13	44	43	28
14	45	44	29
15	45	44	30
平均値	46.3		平均値
標準偏差 σX	2.76		標準偏差 σX
打撃角度 $\alpha (^{\circ})$	+90°		打撃角度 $\alpha (^{\circ})$
角度補正值 ΔR	-3.1		角度補正值 ΔR
補正反発硬度R	43.2		補正反発硬度R
補正前圧縮強度 F (N/mm2)	37.0		補正前圧縮強度 F (N/mm2)
材齢係数K	0.63		材齢係数K
補正後圧縮強度 F (N/mm2)	23.3		補正後圧縮強度 F (N/mm2)
設計基準強度 (N/mm2)	18		設計基準強度 (N/mm2)
判定	○		判定

調査結果

鋼製橋脚隅部疲労調査(調査位置図)

OBAS No.	路線名	行政区	径間番号
橋梁名	走行区分	工営所	点検年月日
交差物名	位置区分	建設年	点検者名
調査径間	橋脚番号		
調査位置図(※1)			
その他			

※1 隅角部の詳細図が無い場合は、溶接線の位置が分かるようにスケッチする。

鋼製橋脚隅角部疲労調査(調査結果)

OBAS No.	路線名	行政区	径間番号					
橋梁名	走行区分	工営所	点検年月日					
交差物名	位置区分	建設年	点検者名					
調査径間	橋脚番号							
損傷図(※1)		調査結果						
		検査 目視検査 塗膜われ・亀裂 局所錆 渦流探傷試験(有・無) 磁粉探傷試験(mm)	結果					備考
			隅角①	隅角②	隅角③	隅角④	隅角⑤	
		探傷試験スケッチ図						
判定※3 (亀裂の有無)								
その他								

※1 疲労亀裂は、亀裂の大きさと先端を図示する。
※2 塗膜を除去した場合は、部分補修(塗り替え)を実施する。
※3 亀裂の有無を記載すること。

塩害調査票（調査位置概要図）

OBAS No.	路線名	行政区	径間番号	
橋梁名	走行区分	工営所	点検年月日	
交差物名	位置区分	建設年	点検者名	

調査位置図				
その他				

：調査箇所の概要がわかるような記録をする（橋梁全体のどの径間を調査したか、どの部材を調査したかわかるように記入する）

塩害調査票(調査結果)

OBAS No.	路線名	行政区	径間番号
橋梁名	走行区分	工営所	点検年月日
交差物名	位置区分	建設年	点検者名

調査位置詳細図(※1)		調査結果				
	調査径間	1				
	調査部位	A1橋台				
	含有塩分量 測定結果 (kg/m3) (※2)	表面部(0-30mm)	0.25			
		中間部(30-60mm)	0.2			
		深部(60-90mm)	0.1			
		深部(90-120mm)	0.1			
	中性化深さ(mm)	2				
	かぶり深さ測定結果(mm)	80				
	鉄筋位置の塩化物イオン濃度	0.1				
	竣工年	1989				
	供用年数	22				
判定(1.2kg/m3以上:要対策, 1.2kg/m3未満:対策不要)		対策不要				
評価	塩化物イオン濃度は極めて低く、塩害による損傷が生じる可能性は低い。					

※1 調査箇所の詳細がわかるような記録をする(基本となる部材からの距離などを記入)。

※2 JIS A 1154に準じて分析した結果を記入する。

アルカリ骨材反応調査(調査位置概略図)

OBAS No.	路 線 名	行政区	径間番号	
橋 梁 名	走行区分	工 営 所	点検年月日	
交差物名	位置区分	建設年	点検者名	
調査径間		～	部 位	
調査位置図(※1)				
その他				

※1 調査箇所の詳細がわかるような記録をする。(基本となる部材からの距離などを記入)

アルカリ骨材反応調査(調査結果)

OBAS No.	路 線 名	行政区	径間番号																					
橋 梁 名	走行区分	工 営 所	点検年月日																					
交差物名	位置区分	建設年	点検者名																					
調査径間				部材名		部材番号																		
試 料 1	基長(mm)																							
	標準養生			解放膨張率(%)																				
	促進養生	時間	24h	48h	72h	96h	120h	144h	168h	1W	2W	3W	4W	5W	6W	7W	8W	9W	10W	11W	12W	13W		
		残存膨張量(mm)	0.026	0.036	0.037	0.04	0.039	0.043	0.047	0.047	0.048	0.048	0.049	0.049	0.049	0.048	0.048	0.048	0.048	0.048	0.048	0.048		
		残存膨張率(%)	0.026%	0.036%	0.037%	0.040%	0.039%	0.043%	0.047%	0.047%	0.048%	0.048%	0.049%	0.049%	0.049%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%	0.048%		
	全膨張量(mm)			0.048																				
	全膨張率(%)			0.048%																				
	残存膨張性			無																				
	試 料 2	基長(mm)																						
		標準養生			解放膨張率(%)																			
		促進養生	時間	24h	48h	72h	96h	120h	144h	168h	1W	2W	3W	4W	5W	6W	7W	8W	9W	10W	11W	12W	13W	
			残存膨張量(mm)																					
			残存膨張率(%)																					
		全膨張量(mm)																						
全膨張率(%)																								
残存膨張性																								
試 料 3		基長(mm)																						
		標準養生			解放膨張率(%)																			
		促進養生	時間	24h	48h	72h	96h	120h	144h	168h	1W	2W	3W	4W	5W	6W	7W	8W	9W	10W	11W	12W	13W	
			残存膨張量(mm)																					
			残存膨張率(%)																					
		全膨張量(mm)																						
	全膨張率(%)																							
	残存膨張性																							
	アルカリ骨材反応(※2)			×																				
	判定																							
	評価																							

※1 促進養生試験(JCI-DD2)またはカナダ法に準じて分析した結果を記入する。カナダ法の場合は、2週目までの測定値を記入する。

※2 試料1～3の最悪値とする。